

社会科における学習評価（中学校）

～「指導と評価の一体化」と「主体的に学習に取り組む態度」を育成する社会科指導～

1 指導と評価の一体化

指導と評価の一体化を実現するために、以下のことに留意して指導と評価を計画・実施していきます。

- ◎ 「評価を指導・学習改善に生かすこと」と「評価を評定に用いること」の両面を実施する。
- ◎ 「内容のまとまり（単元）」ごとに評価規準を設定する。
（すべての単位時間で「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の評価するわけではありません。）
- ◎ 社会科においては、学習指導要領に示された「内容のまとまり」は複数の内容に分かれ、その内容ごとに単元を構成するものがほとんどであり、単元ごとに単元構成や学習過程に沿った具体的な評価規準を作成する。

2 内容のまとまり（単元）における評価のイメージ

<評価例> 地理的分野 単元名「世界各地の人々の生活と環境」（全9時間）

	導入		第一次		第二次			まとめ	
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9
知識・技能	●	●		●○		●			○
思考・判断・表現			●				○	○	
主体的に学習に取り組む態度	●			○					○

●…評価を指導・学習改善に生かす場面 ○…評価を評定に用いる場面

評価においては、内容のまとまりごとの評価規準を作成するとともに、生徒の学習状況を評価する場面を計画し、評定に用いる場面を精選することが大切です。

【「主体的に学習に取り組む態度」の評価について】

「粘り強い取り組み」を行おうとしている側面と、その中で「自らの学習を調整」しようとする側面を評価する。（実際の場面では一体的に見取ることもあります。）

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9
主体的に学習に取り組む態度	●			○					○

単元の導入

【評価を指導・学習の改善に生かす】

場所や自然環境に着目して単元の課題を見出したり、課題解決の見通しをもったりしている。

課題追究

【評価を評定に用いる】

単元前半の学習内容を生かしながら追究しようとしたり、場所や自然環境に関わる様々な資料から追究しようとしたりしている。

仲間の発言から自分の考えを振り返ったり、疑問に思ったことやよくわからないことから新たな追究を始めたりしている。

単元のまとめ

【評価を評定に用いる】

自然環境などに着目して、単元の学び全体を振り返り、疑問に思ったことや、さらに調べてみたいことを見出している。

<指導・学習改善の例>

- ◎ 教師による行動観察や生徒による自己評価等を参考にしながら行う。
 - ・ 導入時に、抽出した生徒の前時のまとめや振り返りを紹介し、課題解決の見通しをもつことや、自身の学習を振り返ることにつなげる。
 - ・ 資料を精選し、課題解決に結び付けやすいようにする。
 - ・ 仲間に説明したり、仲間と議論したりする時間の充実を図る。
 - ・ 問いの内容やタイミングを改善する。
 - ・ 生徒が粘り強く、自らの学習を調整できるための場やワークシート等の工夫をする。